科目名【英】	情報科学【Information Processing】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	1年生	学　期	2学期	曜　日	火曜	時　限	1限目

担当教員	竹田　実和子	実務者経験	

学習内容	Word、Excel、PowerPointの操作を通し、パソコンの活用方法を学ぶ。 適切に情報を活用することができる情報リテラシーを学ぶ。
到達目標	コンピュータの基本操作を身につけ、一般的な文書作成、計算処理ができる。 簡単なプレゼンテーション資料作成能力を身につけ、発表を行うことができる。 情報モラルを身につけ、情報化社会でのルールを守ることができる。

準備学習 時間外学習	予習として教科書を読んでおくこと。授業で学習した演習問題を復習すること。
使用教材	教科書『Office基礎と情報モラルOffice365・Office2021対応』(noa出版)
留意点 備　考	平常点は、主に授業中の態度・取組姿勢などを評価します。

成績評価	本試験（3回 各25%）75%＋平常点25%

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	PC基礎	情報リテラシー（個人情報、ネチケット等）を理解する。 PCの基本操作、文字入力、フォルダーとファイルの基本操作ができる。
2	Word①	文書作成の為のWordの各機能を使い、書式設定、文書編集ができる。
3	Word②	Wordを使って、表の挿入、編集ができる。
4	Word③	画像・図形等を使って効果的な文書を編集できる。
5	Word④･Wordﾃｽﾄ	問題演習・Word評価テスト
6	Excel①	データ入力、書式設定、表示形式を使い、表を作成することができる。
7	Excel②	絶対参照、四則計算、基本的な関数を使って演算を行うことができる。
8	Excel③	グラフの作成と編集ができる。データベースを活用することができる。
9	Excel④･Excelﾃｽﾄ	問題演習・Excel評価テスト
10	PowerPoint①	スライドの作成と効率的な編集ができる。グラフを挿入してExcelとの連携ができる。 アニメーション効果を使うことができる。
11	PowerPoint② (課題制作=PPﾃｽﾄA)	課題制作（スライドおよび原稿作成）…テスト扱い・持込可
12	PowerPoint③ (課題発表=PPﾃｽﾄB)	プレゼンテーション発表

科目名【英】	生物学【Biology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	1年生	学　期	1 学期	曜　日	木曜	時　限	1.2限

担当教員	濵田　吉之輔	実務者経験	

学習内容	基礎医学を学ぶ導入段階として、生物学のヒトに関する生物現象を学ぶ。
到達目標	生物学の知識格差を無くし、並行して基礎医学を学ぶことで基礎医学への学びが円滑になること。

準備学習 時間外学習	1学期から学習する解剖学、生理学を予習復習しておく。
使用教材	配布資料
留意点 備　考	

成績評価	本試験100％

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	人体の構成	細胞や組織など人体を構成するものを列挙できる。 細胞小器官などの機能の説明ができる。
2	循環器系	循環器系の解剖学的用語を列挙できる。 心臓からの循環について説明できる。
3	呼吸器系	呼吸器系の解剖学的用語を列挙できる。 呼吸運動や呼吸の生理学について説明できる。
4	消化器系	消化器系の解剖学的用語を列挙できる。 消化器の機能を説明できる。
5	泌尿生殖器系	泌尿器、生殖器の解剖学的用語を列挙できる。 泌尿器生殖器の機能を説明できる。
6	内分泌系	内分泌腺の解剖学的用語を列挙できる。 内分泌系の機能、内分泌物の作用について説明できる。
7	神経系①	中枢神経系の解剖学的用語を列挙できる。 中枢神経系の機能を説明できる。
8	神経系②	末梢神経系の解剖学的用語を列挙できる。 末梢神経系の機能を説明できる。
9	感覚器系	感覚器系の解剖学的用語を列挙できる。 感覚器系の機能を説明できる。
10	1学期復習	1学期で学んだ内容を説明できる。
11	1学期復習	1学期で学んだ内容を説明できる。
12	試験	試験

科目名【英】	コミュニケーション学【Communication Studies】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	1年生	学　期	1 2学期	曜　日	木曜日	時　限	1学期:3限 2学期:1限

1学期担当教員	北川朋子	実務者経験	

学習内容	社会人として必要な教養や社会的な規範を学習していく。そのために、文章を読み、論理的に書くことを学んでいく。次にグループワークを通して、他者の意見を尊重しながらも、自分の見解を的確に伝えていくことを練習していく。さらに文部科学省後援資格である「こころ検定」４級の試験対策も授業で行っていく
到達目標	適切な日本語を使って、文章を書くことできるようになること。さらに正しい敬語の使い方を理解して、さまざまな場面でコミュニケーションをとることができるようになること。 また「こころ」について授業で学び、「こころ」とは私たちの生活や社会でどのような影響を与えているのかを理解する。

準備学習 時間外学習	興味のある分野の書籍を見つけて、読書の習慣をつけておくこと。
使用教材	配布資料
留意点 備　考	授業ごとに発表とレポートの提出があり、平常点として評価する。

成績評価	本試験60％　平常点40％

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	「自己PR」について	「自己PR」と「自己紹介」の違いを学び、実際に「自己PR」文を書いていく。
2	「履歴書」の書き方	「履歴書」の書き方について学び、実際に記述していく。
3	「こころ検定」4級について①	「こころ検定」4級についての概要説明。『4級対策問題集』を一緒に解いていく。
4	「こころ検定」4級について②	前回に引き続き『４級対策問題集』を解いていき、関連する内容を説明していく。
5	小論文の書き方①	小論文と感想文の違いを理解して、実際に論理的に書いていく。
6	新聞の読み方	新聞記事を読み、要約して自分の意見を発表していく。
7	敬語の知識①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方を学ぶ。
8	敬語の知識②	前回学習した内容を使って、実践的な活用をしていく。
9	電話の応対	敬語の知識を踏まえて、電話のかけ方と受け方のマナーを学ぶ。
10	小論文の書き方②	就職や試験に役立つテーマから小論文を書き、自分の見解を発表していく。
11	全授業の振り返り	今まで学習した内容の総括と復習
12	試験	1学期　定期試験

2学期 担当教員	澤村　律子	実務者経験	1989年4月～　大阪医科薬科大学において心理アセスメント、カウンセリング業務を行う。1996年～大阪医科薬科大学において講義を担当「医学心理学」「コミュニケーション学」他

学習内容	コミュニケーションについて基礎的知識を学び、また患者の心理や医療におけるコミュニケーションについて学習する。
到達目標	①医療におけるコミュニケーションの重要性が説明できる。②非言語的コミュニケーションについて説明できる。③傾聴の重要性、基本的技法について説明できる。④自己理解を深め、コミュニケーションにおいて自身をコントロールすることを理解する。⑤患者の心理について説明できる。

準備学習 時間外学習	授業内で次回授業の準備学習、時間外学習について説明を行う。
使用教材	授業中に資料を配布する。また参考書は随時紹介する。
留意点 備　考	なし

成績評価	100点法により評価 試験70％　授業内レポート30％

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	医療におけるコミュニケーション	医療におけるコミュニケーションの重要性 コミュニケーションの行き違いがなぜ起きるのか？述べることができる
2	非言語的コミュニケーション1	非言語的コミュニケーションの種類、非言語的コミュニケーションの特徴 非言語的コミュニケーションの重要性を述べることができる。
3	非言語的コミュニケーション2	非言語的コミュニケーションの種類、非言語的コミュニケーションの特徴 面接における非言語的コミュニケーションの注意点について述べることができる。
4	傾聴	傾聴について、傾聴の重要性、効果、傾聴の技法 傾聴の重要性について述べることができる。
5	対人認知	対人認知における歪み（思い込み、ハロー効果、寛大効果　など） 対人認知の歪みについて述べることができる。
6	自己理解	交流分析の理論に基づいて自己理解を深める。 交流分析の3つの自我状態を説明することができる。
7	患者理解1	ライフサイクル、発達段階の特徴 各発達段階の特徴を述べることができる
8	患者理解2	病気による心理的変化、患者のストレス 病気による心理的ストレスについて述べることができる。
9	行動変容1	学習理論、自己効力感 学習理論について説明することができる。
10	行動変容2	行動変容 行動変容のステージモデルについて説明することができる
11	試験説明	試験説明
12	定期試験	定期試験

科目名【英】	外国語①～医療英語～【Foreign Language】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	1年生	学　期	2 3学期	曜　日	木曜	時　限	2限

担当教員	南　雅子	実務者経験	

2学期 学習内容	鍼灸師としておさえておきたい基礎医療英語(症状名、各医療機関名、医療略語、患者対応会話、バイタル、身体名、痛みなど)および診療に役立つ基礎英語知識を学ぶ。
3学期 学習内容	２学期に学んだ基礎医療英語の知識を用いて、東洋医療の英語、鍼灸、スポーツトレーニングにおける専門英語をとりあげながら鍼灸治療で使えるさまざまのな表現などを学ぶ。
2学期 到達目標	医療従事者を目指す上で知っておきたい基礎医療用語や表現の習得を目指す。
3学期 到達目標	東洋医療英語、鍼灸英語の習得を目指しながら、鍼灸治療におけるさまざまな表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	症例名、バイタルなどの医療英語を学んでいくので医療の基礎知識があることは望ましい。
使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育者社)　配布プリント
留意点 備　考	外国語①において、東洋医学、鍼灸の専門英語を学習するので基礎力をつける。

成績評価	2学期	2回の発表と医療用語の口頭試験を実施。 学期末試験70%＋発表/口頭試験30% で評価する。	3学期	2回の発表と鍼灸用語などの口頭試験を実施。 学期末試験70%＋発表/口頭試験30% で評価する。

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	医療英語①1	医療英語、授業の進め方/受付 Ch.1/発表(1) – 自己紹介/よく使う英語表現(1) 医学英語の概要を理解することを目標とする。　MA　A～B
2	医療英語①2	身体部位の名称Ch.3/症状 Ch.4/顔の名称/名刺の書き方/ファイルの使い方 症状の言い方、体の名称が言えるようことを目標とする。　MA　C～D
3	医療英語①3	病院各科名 Ch.2/痛み Ch.3,/問診Ch.5/英語問診票(内科/整形外科)/身体の名称 内科、外科の問診票を用い問診方法の学ぶ。　MA　E～H
4	医療英語①4	問診アレルギーや既往歴. Ch.6/内蔵器官名Ch.6/発表(2) Group Work – 受付、診察室の会話 病院の受付や診察室での会話ができるようになることを目標とする。　MA　I～N
5	医療英語①5	内科 診察/測定Ch.7/バイタルサインCh.8/血管、心臓/病院会話のヒント/受付、診察室の会話 病院の受付や診察室での会話ができるようになることを目標にする。　MA O～S
6	医療英語①6	外科Ch.9/ 検査、処置Ch.10/会計 Ch.16 /会計窓口の表現/医療系就職教養英語問題 医療系教養問題を解いてみることで医学英語の基礎理解を目標とする。 MAカルテ略語etc./T～Z
7	医療英語①7	救急患者 Ch.11/緊急時の英語/処方箋と薬 Ch.17/掲示表現etc. 医療従事者が知っておきたい緊急事の英語の単語や用語を使えることを目標とする。
8	医療英語①8	医療英単語　Review/多言語問診票(内科、外科)/カルテCh.18/歯科Ch.19 医療英単語のまとめと練習によって基礎知識の理解を目標とする。
9	医療英語①9	医療英単語–口頭試験/ 骨系、筋肉系資料解説 医療英単語の口頭試験によって発話の機会と定着を目標とする。

10	医療英語①10	医療用語/医療現場で使う表現/よく使う会話表現などの紹介/掲示案内表現/救急時に医療関係者がおさえておきたい英語を練習する。
11	医療英語①試験	医療用語/診療のための表現/医療英略語/バイタルサイン/身体の名称など 試験のためのまとめ学習をすることによる復習を目標とする。
12	医療英語①12	2学期末試験

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	医療英語②１	針灸、漢方の単語./鍼灸院での治療/瞑眩反応(好転反応)/痛みの表現、人体名/発表(1)受付の会話/東洋医療、鍼灸の英語及び授業への取り組みを説明する。
2	医療英語②２	つぼ、陰陽、手技の単語./鍼灸院での治療/手指、足指、間接/海外の鍼灸資料/内蔵名 海外における鍼灸治療の現場の話や現場で使われる用語などの練習を行う。
3	医療英語②３	血液,神経、筋肉の単語/指の関節、足の関節／鍼灸治療時の英会話 鍼灸治療時の英会話の練習により使えることを目標とする。
4	医療英語②４	組織、関節、靭帯/ 鍼灸治療のフレーズ/鍼灸院の受付、診察室での会話(ペアの打ち合わせ練習)
5	医療英語②５	呼吸器疾患、循環器疾患/足ツボの英語/発表(2)鍼灸院の受付、診察室の会話 鍼灸院の受付、診察室での会話の発表により使えるようにすることを目標とする。
6	医療英語②６	鍼灸治療に使う用語/鍼灸院での英語の同意書/リスニング–鍼灸院での会話 鍼灸院での会話のリスニングによって英語表現になれることを目標とする。
7	医療英語②７	炎症の５兆候、婦人科系/骨/鍼灸用語まとめ/鍼灸治療での会話(スクリプト作成提出、練習) 鍼灸治療に関連する症例の紹介、治療での会話を各自考えることによる理解向上を目標とする。
8	医療英語②８	発表(3)–鍼灸治療での会話/筋肉、皮膚、中医学/口頭試験のための単語復習 鍼灸治療の会話の発表により色々な表現を使えるようにすることを目標とする。
9	医療英語②９	口頭–試験鍼灸、東洋医療関連用/鍼灸でよく扱う疾患まとめ 鍼灸、東洋医療関連の英単語の口頭試験により理解と話せることを目標とする。
10	医療英語②10	鍼灸用語、東洋医療、疾患系、鍼灸治療の英語などの復習 試験のためのまとめ学習を通して学習内容の定着を目標とする。
11	医療英語②　試験	３学期末試験
12	医療英語②12	試験返却、見直し/鍼灸院の英語ホームページ/鍼灸院問診票/鍼灸、東洋医療用語資料配布 現場で使えるさまざまな資料の紹介と使用練習による実践へのサポートをする。

科目名【英】	自然療法概説【Outline of Naturopathy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	1年生	学　期	1学期	曜　日	水曜	時　限	1限

担当教員	社家　あい子	実務者経験	2003年～2008年日本メナード化粧品株式会社で技術職員として従事 2001年日本アロマテラピー検定1級、2級取得

学習内容	自然療法（特にアロマセラピー）について学習する
到達目標	社団法人日本アロマ環境協会が実施するアロマテラピー1級検定試験合格程度の知識および鍼灸師が使える応用手技を修得する

準備学習 時間外学習	なし
使用教材	プリント配布
留意点 備　考	

成績評価	本試験100％

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	授業概要	①自然療法について　②美容鍼灸について
2	検定対策１	精油の基礎知識
3	検定対策２	精油が働くしくみ、安全のための注意
4	検定対策３	精油プロフィール
5	検定対策４	精油プロフィール
6	検定対策５	精油プロフィール
7	検定対策６	精油プロフィール
8	検定対策７	精油プロフィール
9	検定対策８	試験対策・総復習
10	実技実習	①アロマテラピーの利用法と素材　②背面のオイルマッサージ
11	まとめと総復習	まとめ
12	試験実技実習	試験

科目名【英】	解剖学①【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	1.2学期月曜 3学期火曜	時　限	1,3学期1限 2学期3限

担当教員	山本　岳	実務者経験	学校附属診療所にて３年間勤務

学習内容	筋骨格系の名称を学ぶ　骨の構造、関節構造を学ぶ 筋の作用よりどのような運動が起きるかを学ぶ
到達目標	ヒトの骨の名称を列挙できる　ヒトの骨の部位の名称を列挙できる　ヒトの筋の名称を列挙できる 筋の作用を筋の名称と併記できる　運動により起きる障害が想起できる

準備学習 時間外学習	配布資料の事前確認　解剖生理学教科書の内容確認
使用教材	配布資料【ファイル】　医歯薬出版解剖生理学第2版
留意点 備　考	教科書を事前に確認しておくこと

成績評価	平常点：30%【小テスト、課題提出：30点満点】　本試験：70%【筆記試験：100点満点】

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	運動器系とは	運動器系とは、人体の区分
2	身体の構造など 骨の分類・構造	解剖学　骨細胞　長骨・短骨・扁平骨など 運動の名称を列挙できる
3	関節の分類・構造 全身の骨格	滑膜性関節　関節の動き　全身骨格の名称 全身骨格の名称を列挙できる
4	筋肉について	分類　役割　動き方 全身にある筋肉の特徴を説明できる
5	全身の筋	全身の骨格筋について 全身の骨格筋の名称を列挙できる
6	肩甲骨・上腕骨 ・鎖骨	骨の名称　骨上のランドマーク 上肢帯・自由上肢【上腕骨】上のランドマークを列挙できる
7	橈骨・尺骨・手部	骨の名称　骨上のランドマーク 自由上肢【前腕・手部】上のランドマークを列挙できる　手根骨の並びを説明できる
8	上肢の筋	肩甲骨に付着する筋 肩甲骨に付着する筋の名称を列挙できる　肩甲骨の筋の作用を説明できる
9	上肢の筋	上腕部の筋・前腕部の筋・手部の筋 上肢の筋の名称を列挙できる
10	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経　体表から蝕知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
11	振り返り	試験説明、１学期の復習
12	試験	

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	上肢の運動	肩関節・肘関節・手部の運動とてこ 上肢の運動を説明できる
2	局所解剖	全身の局所解剖 全身の筋の名称を列挙できる　局所解剖について説明できる
3	体幹の骨 椎骨・肋骨など	骨の名称 骨上のランドマーク 椎骨【頸椎～腰椎・仙骨】の個数を説明できる 椎骨の基本構造を説明できる 各椎骨のランドマークを列挙できる 肋骨上のランドマークを列挙できる
4	体幹の筋	胸部・腹部の筋 胸腹部の筋の名称を列挙できる
5	体幹の筋	背部・頚部の筋 頚部・背部の筋の名称を列挙できる
6	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経　体表から触知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
7	体幹の運動	体幹の運動 体幹の運動を説明できる
8	骨盤【寛骨】	骨の名称　骨上のランドマーク　男女の差 寛骨上のランドマークを列挙できる　寛骨の男女差を説明できる
9	大腿骨	骨の名称 骨上のランドマーク 大腿骨上にあるランドマークを列挙できる
10	脛骨・腓骨	骨の名称 骨上のランドマーク 脛骨・腓骨上にあるランドマークを列挙できる
11	振り返り	試験説明、２学期の復習
12	試験	

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	足部	骨の名称　骨上のランドマーク　距骨の構造 足部の骨の名称を列挙できる　距骨の構造を説明できる
2	下肢の筋	寛骨に付着する筋 寛骨に付着する筋の名称を列挙できる　寛骨に付着する筋の作用を説明できる
3	下肢の筋	大腿部の筋 大腿部に付着する筋の名称を列挙できる　大腿部の筋の作用を説明できる
4	下肢の筋	下腿・足部の筋 下腿・足部の筋の名称を列挙できる　下腿・足部の筋の作用を説明できる
5	下肢の運動	股関節・膝関節・足関節の運動とてこ 下肢の運動のてこを説明できる
6	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経　体表から触知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
7	局所解剖	全身の局所解剖 全身の筋の名称を列挙できる　局所解剖について説明できる
8	頭蓋骨	頭蓋骨の名称 頭蓋骨の名称を列挙できる　各頭蓋骨の特徴を説明できる
9	顔面の筋・運動	表情筋　表情について 表情筋の特徴を説明できる

10	振り返り	試験説明、３学期の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却　解答解説

科目名【英】	解剖学②【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	1学期:火曜 2学期:月曜 3学期:水曜	時　限	1限

1学期 担当教員	高木　健之	実務者経験	専門学校臨床施設にて2年間施術担当
2.3学期 担当教員	柴田　雅朗	実務者経験	1999年4月～大阪医科大学医学部に所属。 解剖学・組織学の講義、人体解剖に携わっている。

学習内容	人体の組織的および肉眼的系統解剖学について学ぶ。
到達目標	身体を構築する各臓器の構造を機能とともに理解する

準備学習 時間外学習	解剖学用語は医学的な用語、漢字が多いので読み方がわからないときは辞書を用いて予習しておくこと
使用教材	解剖生理学　東洋療法学校編
留意点 備　考	3Dで理解できるソフト、アプリなどを活用できると良い

1学期 成績評価	本試験90%、平常点10%
2,3学期 成績評価	本試験100%

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	人体の構成１	細胞の構造、細胞分裂 細胞構造、細胞分裂について説明できる。
2	人体の構成２	組織各組織について名称を列挙できる。
3	人体の構成３	組織、体表構造、人体の方向と区分 組織、体表構造、人体の方向と区分について説明できる。
4	循環器系１	血管系、心臓 血管系について説明できる。　心臓の部位の名称を列挙できる。
5	循環器系２	動脈系 動脈系について説明できる。　各部の動脈の名称を列挙できる。
6	循環器系３	静脈系 静脈系について説明できる。　各部の静脈の名称を列挙できる。
7	循環器系４	胎児循環、リンパ系 胎児循環について説明できる。　リンパ系に関連する名称を列挙できる。
8	循環器系５	予備日
9	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺 呼吸器系各部の名称を列挙できる。
10	復習	試験案内、復習問題
11	復習	復習問題

12	試験	試験

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	消化器系１	消化管の基本構造 消化管の基本構造について説明できる。
2	消化器系２	口腔、咽頭 口、咽頭の部位の名称を列挙できる。
3	消化器系３	食道、胃、小腸、大腸 食道～大腸までの部位の名称を列挙できる。
4	消化器系４	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜 肝臓、胆嚢、膵臓について説明できる。　腹膜について説明できる。
5	泌尿器系	腎臓、尿路 腎臓、尿路の部位の名称を列挙できる。　泌尿器系の構造を説明できる。
6	生殖器系１	男性生殖器 男性生殖器の部位の名称を列挙できる。　男性生殖器について説明できる。
7	生殖器系２	女性生殖器 女性生殖器の部位の名称を列挙できる。　女性生殖器について説明できる。
8	生殖器系３	受精と発生 受精と発生について説明できる。
9	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺 各内分泌器官の説明ができる。
10	復習	予備日、復習問題
11	復習	復習問題
12	試験	試験

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	神経系１	中枢神経系（１）脊髄、脳幹 中枢神経系の部位を列挙できる。
2	神経系２	中枢神経系（２）間脳・大脳 間脳、大脳の説明ができる。
3	神経系３	中枢神経系（３）脳室系、髄膜、脳脊髄液、脳の血管 脳脊髄液の流路について説明できる。　脳の血管の名称を列挙できる。
4	神経系４	伝導路（１）反射路・下行性伝導路 反射路、下行性伝導路の名称を列挙できる。
5	神経系５	伝導路（２）上行性伝導路 上行性伝導路の名称を列挙できる。
6	神経系６	末梢神経系（１）脊髄神経 脊髄神経の名称を列挙できる。
7	神経系７	末梢神経系（２）脳神経・自律神経 脳神経の名称を列挙できる。　自律神経について説明できる。
8	感覚器系１	視覚器・味覚器 視覚器、味覚器の部位の名称を列挙できる。
9	感覚器系２	平衡聴覚器・嗅覚器 平衡聴覚器、嗅覚器の部位の名称を列挙できる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験

12	予備日	試験問題の解説と復習

科目名【英】	生理学①【Physiology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	金曜	時　限	1学期：1限 2.3学期：2限

担当教員	杉本　公一郎	実務者経験	2009年～2015年　医療法人恵登久会　越川病院にて リハビリテーション室　室長として勤務 2016年　すぎもと鍼灸整骨院を開設

学習内容	人体の機能を知り、代謝や運動がどのように行われているのかを学習する。
到達目標	生理学の基礎となる細胞の構造・機能、物質の代謝や生体のリズムおよび免疫機序に対する知識を習得し更に神経系の調節機能、筋の構造と働き、運動や感覚機能の仕組みを理解し習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】解剖生理学　　【配布資料】あり
留意点 備　考	

成績評価	期末試験による100％評価

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	生理学の基礎①	■　生理学の特徴 ■　細胞の構造と働き
2	生理学の基礎②	■　物質代謝の仕組み ■　体液の組成と働き　　■　物質の移動
3	ホメオスタシスと生体リズム	■　ホメオスタシス ■　生体リズム
4	生体の防御機構①	■　生体の防御機構と免疫 ■　生体の防御機構に働く組織と因子
5	生体の防御機構②	■　免疫反応の分類 ■　炎症とアレルギー
6	神経①	■　神経系概論 ■　ニューロンの構造と働き　　■　神経線維の興奮と伝導
7	神経②	■　興奮の伝導と伝達
8	神経③	■　中枢神経系（脳幹・間脳）
9	神経④	■　中枢神経系（小脳・脊髄）
10	神経⑤	■　中枢神経系（大脳）
11	まとめ	
12	試験	

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	神経⑥	■　末梢神経系（脳神経）
2	神経⑦	■　末梢神経系（脊髄神経）
3	内臓の自律神経性調節①	■　交感・副交感神経系
4	内臓の自律神経性調節②	■　自律神経伝達物質と受容体 ■　自律神経の中枢　■　自律神経反射
5	感覚①	■　感覚の一般 ■　体性感覚　表在感覚
6	感覚②	■　体性感覚　深部感覚
7	感覚③	■　内臓感覚
8	感覚④	■　痛みの抑制系
9	感覚⑤	■　特殊感覚　味覚　嗅覚　聴覚
10	感覚⑥	■　平衡感覚　視覚
11	まとめ	
12	試験	

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	筋①	■　骨格筋の構造と働き ■　筋の収縮の仕組み
2	筋②	■　筋のエネルギー供給の仕組み ■　心筋と平滑筋の構造と働き
3	運動①	■　骨格筋の神経支配
4	運動②	■　運動の調節 ■　脊髄レベルの調整 ■　各種反射
5	運動③	■　脊髄レベルの調整　反射 ■　脳幹による運動調節 ■　小脳による調節
6	運動④	■　大脳基底核による調節 ■　大脳皮質による調節 ■　錐体路系と錐体外路系
7	臨床応用	■　実技を含めた、生理学の臨床応用
8	まとめ	
9	1学期復習	
10	2学期復習	

11	試験	
12	予備日	

科目名【英】	生理学②【Physiology】			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	1学期：月曜 2学期：水曜 3学期：木曜	時　限	1学期：2限 2学期：3限 3学期：1限

担当教員			実務者経験	
	1学期	竹中　美樹		辻野夢鍼灸院（2014年8月～2016年3月）
	2学期 3学期	中村　沙樹		医療法人社団しおさき会 しおさき鍼灸施術所（2017年４月～2022年３月）

学習内容	正常な人間の身体のはたらき、機能を学ぶ。 生理学のなかでも第2章～第9章の内容(循環・呼吸など)について学ぶ。
到達目標	正常な人間の身体のはたらき、機能について説明ができる。 はり師きゅう師の国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学と関連させながら復習する。
使用教材	教科書『解剖生理学』（東洋療法学校協会編）　配布プリント
留意点 備　考	副教材として、生理学①の範囲の配布プリントを持参して受講することが望ましい。

成績評価	各章ごとに小テストを実施。小テスト30点満点に換算し、定期テスト70点満点に加算し評価する。

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	循環1	循環【血液の組成と働き】 循環の基本的な血液の働きについて説明ができる。
2	循環2	循環【血液の組成と働き】 赤血球・白血球・血小板・血漿の成分と機能について説明ができる。
3	循環3	循環【止血・血液型】 一次止血・二次止血について説明ができる。血液型について説明ができる。
4	循環4	循環【心臓血管系】 大循環と小循環の流れが説明できる。心臓の構造と働きについて説明ができる。
5	循環5	循環【刺激伝導系・心機能の調節】 刺激伝導系の流れが説明できる。心周期と心音について説明ができる。
6	循環6	循環【血液循環】 血管の構造と働きいついて説明ができる。
7	循環7	循環【循環調節】 血液循環の調節の仕組みについて説明ができる。
8	循環8	循環【リンパ系】 リンパの機能、生成と組成、リンパの輸送について説明ができる。
9	呼吸1	呼吸【呼吸器・換気とガス交換】 外呼吸と内呼吸について説明ができる。肺気量について説明ができる。
10	呼吸2	呼吸【呼吸運動と調節】 吸息と呼息について説明ができる。呼吸の反射性調節について説明ができる。
11	総復習	試験のために総復習を行う

12	試験	1学期試験

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	消化と吸収1	消化と吸収【構造と機能】 消化器系の機能について説明ができる。
2	消化と吸収2	消化と吸収【構造と機能】 消化酵素の種類と働きについて説明ができる。
3	消化と吸収3	消化と吸収【消化管の運動】 咀嚼・嚥下(第1相～第3相)まで説明ができる。胃・小腸・大腸の運動の説明ができる。
4	消化と吸収4	消化と吸収【消化液と吸収】 消化液とその働き、消化管ホルモンについて説明ができる。
5	消化と吸収5	消化と吸収【消化液と吸収】 各栄養素の吸収について説明ができる。
6	消化と吸収6	消化と吸収【肝臓の働き・摂食の調節】 肝臓、物質代謝について説明ができる。摂食の調節について説明できる。
7	代謝1	代謝【栄養素の働き】 栄養素の働きと、エネルギーの代謝について説明ができる。
8	代謝2	代謝【各栄養素の働きと代謝】 各栄養素の働きと代謝の仕組みについて説明ができる。
9	体温1	体温【体温調節】 体温の変動について説明ができる。熱産生と熱放散について説明ができる。
10	体温2	体温【発汗と調節】 発汗調節の仕組みについて説明ができる。
11	総復習	試験のための総復習を行う
12	試験	2学期試験

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	排泄1	排泄【腎臓の働き】 腎臓の働きと、腎循環について説明ができる。
2	排泄2	排泄【尿生成】 尿の生成の流れについて説明ができる。
3	排泄3	排泄【腎臓と体液の調節】 体液のｐｈ、浸透圧調節、体液量の調節について説明ができる。
4	排泄4	排泄【蓄尿と排尿】 膀胱と尿道の神経支配について説明ができる。
5	内分泌1	内分泌【ホルモンの特徴】 ホルモンの特徴と作用機序について説明ができる。
6	内分泌2	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部と下垂体について説明ができる。
7	内分泌3	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺のホルモンについて説明ができる。
8	内分泌4	内分泌【ホルモンの特徴】 膵臓・副腎・精巣・卵巣のホルモンについて説明ができる。
9	生殖・成長と老化1	生殖・成長と老化【生殖】 男性と女性の生殖器について説明ができる。性周期について説明ができる。

10	生殖・成長と老化2	生殖・成長と老化【成長と老化】 身体各部位の成長と細胞の老化について説明ができる。
11	試験	3学期試験
12	3学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

科目名【英】	医療概論 【Outline of Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	1年生	学　期	3学期	曜　日	月曜	時　限	2限

担当教員	太田　育夫	実務者経験	2000年～2002年　近畿大学医学部付属病院にて助手として従事 2002年～2003年　大阪府立中河内救急にてレジデントとして従事 2003年～2005年　東大阪市立総合病院にて医員として従事 2005年～2017年　近畿大学医学部付属病院にて講師として従事 2017年～　社会医療法人三和会永山病院にて救急部長として従事

学習内容	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について学ぶ。
到達目標	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について説明できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	東洋療法学校協会編　医療概論　配布資料
留意点 備　考	

成績評価	本試験100%

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
2	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
3	医療とは①	医療の歴史 東洋医学と西洋医学
4	医療とは②	医療制度
5	医療とは③	倫理
6	日本の医療	日本の医療の現状〔医療保健制度を中心として〕
7	医療倫理①	医療者の倫理について
8	医療倫理②	医療者の倫理について
9	医療倫理③	医療倫理についてのディスカッション
10	まとめ	今学期の復習
11	試験	
12	予備日	

科目名【英】	衛生学・公衆衛生学① 【Hygiene and Public Health】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	1年生	学　期	3学期	曜　日	月曜	時　限	1限

担当教員	竹中　美樹	実務者経験	辻野夢鍼灸院（2014年8月～2016年3月）

学習内容	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
到達目標	わが国の社会情勢について理解し、主に健康をめぐる諸問題、行政とシステムについて説明ができる水準に達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『衛生学・公衆衛生学第2版』にて復習する。
使用教材	『衛生学・公衆衛生学第2版』鈴木庄亮、公益社団法人東洋療法学校協会 編集　（医歯薬出版） 『ライフスタイルと健康』森本曩　著(医学書院) 『国民衛生の動向』(厚生統計協会)
留意点 備　考	講義中、まとめとしてはり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	本試験80%　小テスト20%

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	第1章　公衆衛生の目的、衛生行政	[到達目標]衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。 保健所と市町村保健センターの役割を説明できる。
2	第2章　疾病の予防と健康管理	[到達目標]プライマリーヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。 予防医学(1次、2次、3次)の具体的内容が説明できる。
3	第3章　ライフスタイルと健康	[到達目標]生活習慣に起因する危険因子について理解する。 食中毒について各型・種類について理解する。健康観について、近年見直されている健康生成論について知る。
4	第4章　環境と健康	[到達目標]気圏環境・大気汚染について理解する。 水圏環境・上水および下水・水質汚濁について理解する。 公害による健康被害について理解する。典型7公害について説明できる。4大公害の発生場所と原因・疾病の内容が説明できる。
5	第5章　産業保健 第6章　精神保健	[到達目標]労働衛生にかかわる現状と課題について理解する。労働衛生3管理が説明できる。職業病と原因となる環境因子について説明できる。精神保健にかかわる現状と課題について理解する。主な精神疾患の特徴、精神保健の入院医療の定義について説明できる。
6	第7章　母子保健	[到達目標]妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。母子保健行政について理解する。我が国の母子保健の水準について説明できる。母子保健行政の具体例について説明できる。
7	第8章　成人・高齢者保健	[到達目標]高齢者保健の現状と問題点について理解する。 介護保険の対象者について説明できる。

8	第9章　感染症とその対策	[到達目標]感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。 感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
9	第10章 消毒法 第11章 疫学	[到達目標]消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。 疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
10	第12章 保健統計	[到達目標]我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。 人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
11	まとめ	まとめ
12	試験	試験

科目名【英】	東洋医学概論①【Outline of Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	1年生	学　期	2.3学期	曜　日	火曜	時　限	2限

担当教員	一井　綾乃	実務者経験	1996年4月～鍼灸院所属、 1996年7月～2013年3月大阪医大付属病院麻酔科ペインクリニック所属

学習内容	東洋医学の基礎を学ぶ。
到達目標	東洋医学に携わるものとして理解しておくべき陰陽五行論、蔵象、病証などを学習し、実際の臨床に応用できる基礎知識を得る。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『東洋医学概論』（東洋療法学校協会）、プリント
留意点 備　考	毎回小テストを行う。

成績評価	各学期毎時間小テストを行う。その評価を20～30％、期末試験を70～80％で評価する。

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	陰陽学説	陰陽学説を学習し、理解できる。
2	五行学説	五行学説を学習し、理解できる。
3	五行色体表	五行色体表を学習し、理解できる。
4	生理物質1	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
5	生理物質2	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
6	蔵象1	五臓六腑、奇恒の腑、十二官について学習し、理解できる。
7	蔵象2	肝、心の蔵象を理解できる。
8	蔵象3	心、脾の蔵象を理解できる。
9	蔵象4	脾、肺の蔵象を理解できる。
10	蔵象5	肺、腎の蔵象を理解できる。
11	蔵象6	三焦の蔵象を理解できる。学期の復習
12	試験	試験

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	病証1	八綱病証について理解できる。
2	病証2	陰陽の病証について理解できる。
3	病証3	気、精の病証について理解できる。
4	病証4	血、津液の病証について理解できる。
5	病証5	肝の病証について理解できる。
6	病証6	心の病証について理解できる。
7	病証7	脾の病証について理解できる。
8	病証8	肺の病証について理解できる。
9	病証9	腎の病証について理解できる。
10	まとめ	３学期の復習
11	試験	試験
12	振り返り	3学期の内容を理解し、復習する。

科目名【英】	経絡経穴概論①【Outline of the Meridians and Acupuncture Point】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	水曜	時　限	3限

担当教員	林　眞早	実務者経験	2013年2月～　治療院開業

学習内容	督脈から手少陽三焦経までの経脈の走行・所属経穴・取穴部位を学ぶ。人体取穴を行う。
到達目標	経穴名の習得（覚える・書ける）　　取穴部位の習得（正確に取穴ができる）

準備学習 時間外学習	暗記期間、確実に覚えこむこと。また何度も繰り返して覚えなおすこと。
使用教材	教科書『経絡経穴概論』（東洋療法学校協会）　配布プリント
留意点 備　考	講義と実技を行う。実技では取穴しやすい服装を用意すること。お互いに尊重し合って行うこと。

成績評価	期末試験60％＋小テスト（暗唱含む）40％で評価する。3学期は70％＋小テスト30％で評価する。

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	総論　陰陽の概念	■　経絡経穴概論を学ぶにあたっての総論 ■　陰陽の概念についての説明
2	骨度法	■　五行説・五臓六腑の概念について説明 ■　経絡・経穴とは ■　骨度法
3	経絡・経穴の概念 小テストA	■　五行説・五臓六腑の概念について説明 ■　経絡・経穴とは
4	督脈① 小テストB	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
5	督脈② 骨度法テスト	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
6	任脈① 小テストC	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
7	手太陰肺経 小テストD	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
8	手陽明大腸経①	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
9	手陽明大腸経② 小テストE	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
10	復習	範囲：督脈・任脈・手太陰肺経・手陽明大腸経
11	テスト対策	
12	テスト	

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	要穴の概念と意義	■　テスト解説 ■　五兪穴・五要穴の説明
2	足陽明胃経① 小テストA	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
3	足陽明胃経② 小テストB	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
4	足陽明胃経③	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
5	足太陰脾経① 小テストC	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
6	足太陰脾経② 小テストD	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
7	予備	
8	手少陰心経 小テストE	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
9	手太陽小腸経① 小テストF	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
10	手太陽小腸経②	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
11	テスト対策	
12	テスト	

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	要穴・四総穴・八宗穴	■　テスト解説 ■　五兪穴・五要穴の説明
2	足太陽膀胱経①	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
3	足太陽膀胱経②	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
4	足太陽膀胱経③	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
5	足少陰腎経①	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
6	足少陰腎経② 小テストA	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
7	手厥陰心包経	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
8	予備	
9	手少陽三焦経①	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
10	手少陽三焦経② 小テストB	■　循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
11	テスト	

12	テスト返却	■ 解答

履修上の注意

1．講義と取穴実技を行う。実技では学生同士で身体に触れて経穴を取ります。取穴しやすい服装（白衣の下にタンクトップ、短パンなど）を用意すること。お互いに尊重しあって行うこと。
2．出席は自分で管理すること。聞きにこないように。

科目名【英】	はりきゅう理論①【Scientific Foundation of Acupuncture】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	1年生	学　期	1学期	曜　日	火曜	時　限	2限

担当教員	冨倉　捷矢	実務者経験	2018年4月～2021年3月　機能訓練士としてデイサービスに所属 2021年4月～2022年3月　鍼灸整骨院に所属　その後開業

学習内容	はり術、きゅう術の基礎を学ぶとともに様々な鍼灸の治療法を学ぶ
到達目標	□　はりきゅう治療の適応・不適応および消毒の概念の習得 □　基礎的なはりきゅう治療の知識の習得 □　伝統的なはりきゅう治療法の知識の習得

準備学習 時間外学習	はりきゅう理論の教科書を事前に読んでおく
使用教材	【教科書】はりきゅう理論　　【配布資料】あり
留意点 備　考	なし

成績評価	各学期に2回小テストを実施。期末試験70％＋小テスト20％＋出席点10％で評価する。

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	第1章　概論 第2章　鍼の基礎知識	■　鍼灸の歴史と鍼灸に必要な古代思想 ■　毫鍼の各部の名称 目標：鍼灸の歴史・古代思想と毫鍼の各部名称を理解する。
2	第2章　鍼の基礎知識	■　鍼の太さと長さの基準 ■　鍼先の形状と特徴・鍼の材質と特徴・鍼管の材質と特徴 目標：鍼の太さと長さ・形状・材質・鍼管の材質の特徴を理解する。
3	第2章　鍼の基礎知識	■　古代九鍼の種類と特徴 目標：古代九鍼を理解する。
4	第3章　刺鍼の方式と術式	■　刺鍼の方式〔撚鍼法・打鍼法・管鍼法〕 ■　刺鍼の術式〔揉撚法・押手・刺手・切皮・刺入法・刺鍼の角度〕 目標：刺鍼の方式・術式を理解する。
5	第3章　刺鍼の方式と術式	■　刺鍼中の手技〔現行17手技〕 目標：17手技を理解する。
6	第4章　特殊鍼法	■　小児鍼・皮内鍼・円皮鍼・灸頭鍼 目標：小児鍼・皮内鍼・円皮鍼・灸頭鍼を理解する。
7	第4章　特殊鍼法	■　低周波鍼通電療法・耳鍼・レーザー鍼・頭鍼療法・イオン鍼・刺絡 目標：低周波鍼通電療法・耳鍼・レーザー鍼・頭鍼療法・イオン鍼・刺絡を理解する。
8	第5章　灸の基礎知識	■　艾について〔原料・成分・品質〕・線香 目標：艾・線香について理解する。
9	第6章　灸術の種類	■　有痕灸〔透熱灸・焦灼灸・打膿灸〕の概要 ■　無痕灸〔知熱灸・温灸・隔物灸・艾を使用しない灸法〕のそれぞれの概要と種類 目標：有痕灸・無痕灸を理解する。

10	第7章　鍼灸の臨床応用	■　はりきゅうの刺激量　■　個体(患者)の感受性 ■　鍼灸療法の適応と禁忌 目標：はりきゅうの刺激・個体の感受性・鍼灸療法の適応と禁忌を理解する。
11	復習・まとめ	振り返り・まとめ 目標：本学習の内容について確認をする。
12	定期試験	定期試験 目標：本学習の内容について修得している。

科目名【英】	はりきゅう実技①～基礎はり実技～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単　位	2
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	水曜	時　限	２限

担当教員	林　眞早	実務者経験	2013年2月～　治療院開業

学習内容	鍼灸師になるために必要な鍼施術の基礎を学び、刺鍼の基礎技術を修得することを目的とする。
到達目標	前期は刺鍼操作の基礎である片手挿管法の習得および正確な下腿・前腕の経穴の取穴と刺鍼法の習得。後期は身体各部の主要経穴の取穴法と経穴部位への指示された刺入深度に旋撚法および送り込み刺法で直刺・斜刺・横刺の刺入ができ、雀啄術と刺鍼転向法の習得を目標とする。

準備学習 時間外学習	自主練習が必要。
使用教材	【教科書】はりきゅう実技
留意点 備　考	実技では学生同士で身体に触れて取穴や施術を行います。取穴しやすい服装で。お互いを尊重し合って行うこと。

成績評価	実技試験50％＋平常点50％で評価する。

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	導入	自己紹介・授業内容・評価方法・督脈の棘突起確認
2	鍼灸臨床導入	鍼灸臨床にあたって施術室の管理、患者の体位、安全性、医療過誤において知る（はりきゅう実技基礎）、棘突起確認
3	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（仙骨裂孔、ヤコビー線、棘突起、肩甲骨）。片手挿管操作の練習。板上施灸の練習。
4	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（脛骨内側顆、膝蓋骨尖、内果、外果）とそれに基づく経穴取穴。片手挿管操作の練習。板上施灸の練習。
5	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（胸骨、脛骨内側顆、膝蓋骨尖、内果、外果）とそれに基づく経穴取穴。片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。
6	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（上腕骨外側上顆・外側上顆）とそれに基づく経穴取穴。片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。
7	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（胸骨）とそれに基づく経穴取穴。片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習（タイムトライアル）。
8	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（仙骨）とそれに基づく経穴取穴。片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習（タイムトライアル）。
9	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標とそれに基づく経穴取穴復習。片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習（タイムトライアル）。
10	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標とそれに基づく経穴取穴復習。片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習（タイムトライアル）。
11	試験	
12	試験	

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	下腿への刺鍼①	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 足三里穴の取穴法と刺鍼→直刺90°刺入1.5㎝
2	下腿への刺鍼②	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 陽陵泉穴・地機穴の取穴法と刺鍼→直刺90°刺入1.5㎝
3	前腕への刺鍼①	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 曲池穴の取穴法と刺鍼→直刺90°刺入1～1.5㎝
4	前腕への刺鍼②	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 合谷穴の取穴法と刺鍼→直刺90°刺入1～1.5㎝
5	各部の刺鍼①	【手指部･手関節部】送り込み刺法・旋撚法 中渚・陽池
6	各部の刺鍼②	【前腕部】送り込み刺法・旋撚法 内関・外関
7	各部の刺鍼③	【肘関節部】送り込み刺法・旋撚法 尺沢・曲沢
8	各部の刺鍼④	【足指部】と【足関節部周囲】送り込み刺法・旋撚法 太衝・足臨泣・崑崙
9	直刺・斜刺・横刺	刺入角度による押手の決め方の相違点および送り込み刺法 雀啄術と刺鍼転向法
10	復習	試験内容確認
11	試験	
12	試験	

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	各部の刺鍼⑤	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【膝関節部周囲】送り込み刺法・旋撚法　→　血海・梁丘
2	各部の刺鍼⑥	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【下腿部前側･外側】送り込み刺法・旋撚法　→　豊隆・懸鍾
3	各部の刺鍼⑦	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【下腿部後側･内側】送り込み刺法・旋撚法　→　三陰交・陰陵泉・承山
4	各部の刺鍼⑧	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【腰部】送り込み刺法・旋撚法　→　腎俞・志室・大腸俞
5	各部の刺鍼⑨	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【仙骨部】送り込み刺法・旋撚法　→　次髎 棒灸
6	各部の刺鍼⑩	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【背部】送り込み刺法・旋撚法　→　身柱・肺俞 しょうが灸・ニンニク灸
7	各部の刺鍼⑪	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【頭部と後頸部】送り込み刺法・旋撚法　→　百会・天柱・風池 塩灸
8	各部の刺鍼⑫	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【腹部】送り込み刺法・旋撚法　→　天枢・関元

9	各部の刺鍼⑬	片手挿管操作の練習（タイムトライアル）。板上施灸の練習。 【肩部】送り込み刺法・旋撚法　→　肩井・天宗
10	試験	
11	試験	
12	予備日	【顔面部】送り込み刺法・旋撚法　→　下関・攅竹・聴会・四白 箱灸

1学年での刺鍼実技に使用する経穴について

前期	下腿	足三里・地機・陽陵泉	
	前腕	合谷・曲池	
後期	上肢	中渚・陽池・内関・外関・尺沢・曲沢	
	下肢	血海・梁丘・三陰交・陰陵泉・承山・太衝・足臨泣・崑崙・豊隆・懸鐘	
	体幹	頭　部 後頚部	百会・天柱・風池
		顔面部	下関・攅竹・聴会・四白
		腹　部	天枢・関元
		背　部	身柱・肺兪
		腰　部 仙骨部	腎兪・志室・大腸兪・次髎
		肩　部	肩井・天宗

科目名【英】	はりきゅう実技②～基礎きゅう実技～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単　位	2
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	金曜	時　限	1学期：2限 2.3学期：1限

担当教員	駒井　知佳子	実務者経験	2009年4月～2014年6月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014年4月桃の花針灸院開院

学習内容	身体に安全かつ有効な施灸ができるように、技術を学ぶ。
到達目標	1学期：紙上施灸・板状施灸がおこなえる。 2学期：安全に身体施灸をおこなえる。 3学期：身体施灸の応用をおこなえる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	実技道具、【教科書】はりきゅう実技、図解施灸基礎実践マニュアル、
留意点 備　考	服装など規定の準備をしておくこと。

成績評価	本試験50%　平常点50%（中間試験とレポート作成等）

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	導入	灸術と授業内容の説明
2	練習道具作成	施灸板、艾炷模型の作製説明
3	艾炷作製１	艾を棒状にする、摘む、立てる
4	艾炷作製２	艾炷に着火する
5	艾炷作製３	艾炷作製～着火まで一通りできるようになる
6	施灸基礎１	紙上施灸開始
7	施灸基礎２	消火の練習
8	施灸基礎３	自身に施灸する
9	施灸基礎４	他者に施灸する
10	期末試験練習	期末試験の説明と練習
11	期末試験１	板上施灸、紙上施灸
12	期末試験２	板上施灸、紙上施灸

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	身体施灸初級１	心地よい消火の練習、1学期追再試兼
2	身体施灸初級２	治療の流れを身につける（印付けから消毒まで）
3	身体施灸初級３	半米粒大の作製と施灸
4	身体施灸中級１	仰臥位での施灸（主に上肢・下肢）
5	身体施灸中級２	仰臥位での施灸（主に腹部）
6	身体施灸中級３	伏臥位での施灸（主に下肢）
7	鍼体施灸中級４	伏臥位での施灸（主に腰背部）
8	身体施灸上級１	腰痛の施灸
9	身体施灸上級２	腰痛の施灸
10	期末試験練習	期末試験の説明と練習
11	期末試験１	板上施灸、紙上施灸、身体施灸
12	期末試験２	板上施灸、紙上施灸、身体施灸

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	臨床実習前実技１	ディスカッションとレポート作成　テーマ：マナー
2	身体施灸応用１	澤田流太極療法１
3	身体施灸応用２	澤田流太極療法２
4	臨床実習前実技２	ディスカッションとレポート作成　テーマ：守秘義務
5	身体施灸応用３	乱取り施灸１
6	身体施灸応用４	乱取り施灸２
7	臨床実習前実技３	ディスカッションとレポート作成　テーマ：シュミレーション
8	期末試験練習１	期末試験の説明と練習
9	期末試験練習２	期末試験の説明と練習　および　板状試験（前倒し実施）
10	期末試験１	紙上施灸、身体施灸
11	期末試験２	紙上施灸、身体施灸
12	期末試験まとめ	総括と追再試験

科目名【英】	はりきゅう実技③～基礎はりきゅう実技～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	2
学　年	1年生	学　期	通年	曜　日	1.2学期：月曜 3学期:金曜	時限	1.3学期:3限 2学期：2限

担当教員	中村沙樹	実務者経験	医療法人社団汐咲会　しおさき鍼灸施術所　など　11年

学習内容	はり・きゅう施術を適切に行うために不可欠な技術を習得するための基本操作・技術を習得する。
到達目標	１学期：道具の扱いを覚え、片手挿管とはり枕への刺鍼が行える ２学期：指定された深さ・角度で人体への刺鍼が行える ３学期：全身に安全な深さ角度で刺鍼が行える

成績評価	実技試験１００％

１学期　授業計画【内容･目標】		
1	プロローグ	道具の説明、実習科目ガイドラインの説明、実技室の使い方など
2	押手と 片手挿管	押手と片手挿入の動きの確認。
3	切皮弾入 片手挿管	前回の復習と切皮・弾入動作の確認、片手挿管の練習
4	刺入と 片手挿管	前回の復習と鍼の刺入（送り込み・旋撚刺入）
5	施術準備 片手挿管	前回の復習と施術準備の導入（手洗い、道具準備、手指消毒など）
6	片手挿管の 中間試験	片手挿管の中間試験　正しい動きで片手挿管ができているか
7	消毒と 刺鍼の流れ	５コマ目の復習と施術野の消毒操作、刺鍼の一連の流れ
8	角度を 変えた刺入	前回の復習と角度を変えた刺鍼（斜刺、横刺）
9	総復習	１学期の総復習
10	試験練習	１学期試験の練習
11	試験	1学期試験
12	試験	１学期試験

２学期　授業計画【内容･目標】		
1	１学期の 復習	１学期に学習したことを復習し、次の自分への刺鍼に備えて刺鍼部位の確認や消毒の手順を確認する

2	自分への 刺鍼	自身への刺鍼を行う。痛みのない押手、切皮弾入動作の確認
3	角度を 変えた刺鍼	前回の復習と様々な角度で自身への刺鍼と刺入を行う
4	中間試験の 練習	自身への刺鍼の練習
5	中間試験	自身への刺鍼の中間試験を行う
6	消毒の確認 相手への刺鍼	消毒手順や押手・切皮弾入動作を確認し、ペア相手への刺鍼を行う
7	相手への刺鍼	前回の復習とペア相手への刺鍼の練習を行う。深さ・角度の確認
8	相手への刺鍼	前回の復習と指定された場所・深さ・角度での刺鍼が行えているかを確認
9	総復習	２学期の総復習
10	試験練習	２学期試験の練習
11	試験	２学期の定期試験
12	試験	２学期の定期試験

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	上肢への刺鍼	上肢の経穴に安全に刺鍼できるようになる
2	上肢への刺鍼	上肢の経穴に安全に刺鍼できるようになる
3	下肢への刺鍼	下肢の経穴に安全に刺鍼できるようになる
4	下肢への刺鍼	下肢の経穴に安全に刺鍼できるようになる
5	腰部への刺鍼	腰部の経穴に安全に刺鍼できるようになる
6	腰部への刺鍼	腰部の経穴に安全に刺鍼できるようになる
7	肩背部の刺鍼	肩背部の経穴に安全に刺鍼できるようになる
8	総復習	3学期の総復習
9	総復習	3学期の総復習
10	試験	3学期の定期試験
11	試験	3学期の定期試験
12	エピローグ	1年間の振り返り

科目名【英】	はりきゅう実技④～臨床基礎実技～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	24	単　位	1
学　年	1年生	学　期	2学期	曜　日	木曜日	時　限	3限目

2学期担当教員	竹中　美樹	実務者経験	辻野夢鍼灸院（2014年8月～2016年3月）

2学期学習内容	きゅう師になるための必要な基礎知識ならびに施灸技術を習得する。
2学期到達目標	①目的に合った艾を作成することができる。　②紙上施灸は10分間90－120壮行うことができる。 ③灸による医療過誤の予防法と対処法を学ぶ。④身体各部位へ安全な施灸を行うことができる。 ⑤棒灸、灸頭針など特殊灸法の基礎を学ぶ。

2学期	
準備学習時間外学習	紙上施灸・及び身体施灸（八分灸）の練習
使用教材	せんねん灸　カマヤミニ　もぐさ
留意点備　考	

成績評価	実技試験60％　小テスト40％

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	導入	授業内容、評価方法の説明等
2	身体施灸	紙上灸　カマヤミニ
3	身体施灸	紙上灸　カマヤミニ
4	身体施灸	八分灸
5	身体施灸	八分灸　カマヤミニ
6	身体施灸	隔物灸（塩灸）
7	特殊灸法	俸灸
8	特殊灸法	灸頭鍼（ラック灸）背部兪穴の取穴
9	身体施灸	透熱灸
10	まとめ	試験練習
11	試験	
12	試験	

科目名【英】	はりきゅう実技④～臨床基礎実技～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	24	単　位	
学　年	1年生	学　期	3学期	曜　日	木曜日	時　限	3限目

担当教員	向井　陽子	実務者経験	2003年より3年半　リハビリ施設でリハビリ助手として勤務 2006年より向井鍼灸院を開院　現在に至る

学習内容	本授業では、スポーツ現場において求められる鍼灸施術を想定し、簡易姿勢評価を基盤とした評価能力と、経絡を全身のつながりとして捉える思考力、筋膜刺鍼・灸・手技を組み合わせた実践的施術技術の習得を目的とする。 経絡は特定の流派や証決定を目的とするものではなく、評価結果を整理し、施術選択を考えるための思考の枠組みとして用いる。 毎回の授業冒頭に簡易姿勢評価およびバランス評価を行い、「評価 → 経絡的整理 → 施術 → 再評価」の流れを反復することで、臨床現場で即応できる実践力の定着を図る。
到達目標	・簡易姿勢評価およびバランス評価を実施できる　・評価結果を経絡の流れと関連づけて整理できる ・評価をもとに施術部位・施術方法を考えることができる　・筋膜刺鍼の基本操作を安全に行うことができる ・灸・手技を目的に応じて併用できる　・施術前後の変化を観察し、説明できる 1年生では評価手法および施術の基本操作の習得を目指す。

準備学習 時間外学習	解剖学・経絡経穴概論の予習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	副教材として解剖学・経絡経穴概論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	・授業態度　・実技への取り組み　・評価内容の記述および実技試験の結果 期末試験60%＋平常点（提出物の採点込み）40%

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	オリエンテーション・簡易姿勢評価	授業の進め方、簡易姿勢評価・バランス評価の目的と方法
2	筋膜刺鍼の基礎①	下肢の浮腫・疲労に対する鍼灸施術および手技
3	筋膜刺鍼の基礎②	全身疲労に対する鍼灸施術および手技 局所評価から全身調整への展開
4	スポーツ障害①	下肢（足関節・下腿）に対する評価と施術
5	スポーツ障害②	下肢のオーバーユース障害（シンスプリント等）に対する評価と施術
6	スポーツ障害③	上肢（肘関節）に対する評価と施術
7	スポーツ障害④	筋損傷（肉離れ）に対する評価と施術
8	競技・現場を想定した施術	短時間施術の組み立て
9	総まとめ・振り返り	評価から施術、再評価までの流れの整理

10	試験説明・実技練習	試験内容・評価基準の説明および練習
11	実技試験①	期末試験
12	実技試験②	期末試験